

小動物における、輸血医療の重要性

執筆者・岡谷動物病院 佐々木厚さん

はじめに

読者の皆さんも「献血」を行ったことがあられると思います。人の医療でも人工血液はまだ存在せず、献血は献血に頼っているのが現状です。常に不足しており、積極的な献血運動がなされています。この時の大切な精神は「お互いさま」という気持ちです。いつ自分が輸血の世話になるかわからないのに、献血をしないというのはエゴというところになりま

す。人工血液がないわけですから、献血を積極的に行って十分に輸血医療ができる体制を自分から作っていかなくては医療そのものが成り立たなくなってしまう。

小動物の輸血医療も、人の場合と全く同じです。人工血液はなく、輸血はなくてはならない治療にもかかわらず献血に頼るしかありません。そこには自分のお互いさまが輸血の必要ながや病気になるかわからないで

すから、「お互いさま」の気持ちを持ってお互いに輸血医療を支えつつっていくという意識

がとても大切になってきます。ヒトの赤十字と同じような、民間組織の大規模な本格的血液バンクが2度設立されましたが、2回とも失敗してしまいました。ですから現在日本には動物の血液バンク組織は存在しません。欧米では早い時期から、人と同じような血液バンク組織が複数設立され、365日・24時間いつでも希望の血液を動物病院が受け取ることができ体制になっていま

す。日本の獣医療の最も遅れている点が「輸血医療体制」「動物看護師国家資格制度」「救急医療体制」の3つであると指摘されているのもうなずけま

す。欧米の素晴らしいシステムも一朝一夕できたわけではなく、長い時間をかけて熱心な獣医師と、飼い主が力を合わせて国や企業を巻き込んで創設してきたものです。日本も一刻も早く欧米並みのシステムを作らなければ

なりません。2度の失敗から未だに血液バンク組織をつくる動きは全くありません。現在ではそれぞれの動物病院が犬や猫を病院内で飼って、輸血に備えているのが実情です。

当院では、1年以上前から、県内で唯一患者さんと協力して血液バンク体制をつくってきました。避妊・去勢手術時は必ず、身体・血液・胸レントゲン・血液ガス・フィラリアの各検査、猫エイズ・猫白血病の検査などを行って、全身麻酔に耐えられるか、猫がエイズ・白血病ウイルスを持っていないかをチェックする時に、血液バンクへの登録と血液型測定・マイクログリップの話をして協力を仰いでいます。現在血液バンクに登録してくれた犬さん371頭、猫さん210頭です。また当院では輸血用のウサギを病院で飼っていま



なりませんが、2度の失敗から未だに血液バンク組織をつくる動きは全くありません。現在ではそれぞれの動物病院が犬や猫を病院内で飼って、輸血に備えているのが実情です。

このコーナーへのご意見、ご感想をお寄せ下さい！
ご意見、ご感想、岡谷動物病院の佐々木先生に聞いてみたいことなどをお寄せ下さい。住所、名前、電話番号を明記し、郵送(〒394-0028岡谷市本町3の8の30)、ファクス(0266-22-4444)、Eメール(mail@shimin.co.jp)のいずれかで、市民新聞グループ編集局「見る」係へお送りください。
バックナンバーは岡谷動物病院ホームページでご覧いただけます。

血液型

皆さんの血液型に関してはまだ人間と比べると分かっていない部分も多く、現在DEA1.1、1.2、3、4、5、7の六つの血液型が知られてい

ます。そのうち輸血に重要なのがDEA1.1型であり(一)に分類されます。現在日本でも調べられる血液型判定キットはこの型のみです。猫では、ABシステム法が一般的で、A型・B型・AB型の三

つの血液型に分類されます。日本ではほとんどがA型であり、B型は少なく、AB型は極めてまれです。日本で検査できるキットも猫ではこのABシステムだけです。混合させて血液が固まったり溶けたりしないかどうかをチェックする必要があります。ヒトでも同じようなテストを必ず行っている。命に関わる輸血副反応を防ぐために絶対に必要なことです。

による貧血」「DIC」「播種性血管内凝固」「貧血の動物への全身麻酔・外科手術」「大出血が予想される肝臓がんや困難な手術」「人工心臓による心臓手術」など、人と同じようながや病気に

に対する内科治療として、または外科治療の一環として極めて重要でなくてはならないものとなっています。

輸血適合検査

ヒトと同じように血液型の同じ動物から輸血を行うのが原則です。しかし、犬猫さんでは人と違って未知の

血液型の存在が分かっていないため、輸血時には必ず「クロスマツチテスト」という、血液を遠心分離して赤血球と上澄み液に分離し、与える動物と受け取る動物のそれぞれを

「重度の咬傷」「高血圧による出血」「高血圧による出血」「高血圧による出血」

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「重度の咬傷」「高血圧による出血」「高血圧による出血」

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん



「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん

「殺鼠剤中毒」「さまざまな原因による溶血性貧血」「さまざまな原因による血小板減少症による貧血」「骨髄の病気に伴う貧血」「白血球や血液のがん